

事例 5 秋田県秋田市 ～商業施設及び大学への期日前投票所の設置～

- 市の面積：905.7km²
- 市の人口：315,814人（H27年国勢調査）
- 選挙人名簿登録者数：270,582人（H28年参（選挙時登録））
- 投票所数：61箇所
- 期日前投票所数：10箇所（公共施設、商業施設、大学、駅）
- 直近選挙の投票率：58.00%（H28参）50.51%（H27県議）47.61%（H27市議）
54.08%（H26衆）
- 18、19歳の投票率：18歳：51.76%、19歳：39.87%（H28参）

取組に至る経緯

①「イオンモール秋田」への設置

秋田市の中心部には、従来、市役所とJR秋田駅（東西連絡自由通路）の2箇所に期日前投票所が設置されていたが、多くの期日前投票者が利便性の高い秋田駅に集中し、投票所内の混雑を解消する観点から投票者を分散させる必要が生じていた。まずは、既存の期日前投票所の地域バランスに配慮したうえで、利便性・知名度・人の往来（集客力）・投票環境等の条件から候補地の検討をはじめ、最終的に新興住宅地の開発が進み人口の増加も見込まれる地域に位置し、いずれの条件も満たす「イオンモール秋田」への設置を進めた。

秋田市では、平成19年4月の秋田県議会議員選挙において、全国初のイオンモールへの期日前投票所の設置を行って以降、地方選挙レベルでは同様に設置を行ってきており、今回の参院選においても、同様の場所への設置に向けた施設側との調整は、比較的容易に進んだ。

平成28年3月4日にイオンモールへの設置意向を選管において決定し、3月16日にイオンモール側に打診し、最終的に3月22日には、設置について了解が得られた。

②「秋田大学」への設置

選挙権年齢引き下げに伴い、若年層への啓発効果や投票率向上を目的に、市内の大学での設置について検討を行った。設置に向けては、大学側の意向も尊重する必要があるため、平成28年2月初めに秋田市内の大学（大学6、短大2）に対し、期日前投票所設置に対する意向や、選挙管理委員会から依頼していた学生ボランティアによる投票事務従事の可否などについて調査を実施した。調査結果は表1のとおりであり、明確に「設置を希望」との回答があったのは4大学あったが、「専用回線が容易に確保できる」、「学生が多い」、「人員確保等の協力も得られる」等の観点から、最終的に秋田大学への設置を決定した（平成28年4月25日に選挙管理委員会決定）。

(表1：大学への意向調査結果)

学校名	設置の動向	1. 大学構内での期日前投票所の設置について	2. 大学施設の光回線利用キャリアについて	3. 生徒数	問題点
秋田大学	設置	設置を希望する	A社	4,452人	・特になし
B大学	見送り	設置を希望する	A社	1,000人未満	・ボランティアとしての学生確保 ・秋田市に住民票がある学生が少ないと思われる
C大学	見送り	検討中	A社	1,000人未満	・ボランティアとしての学生確保 ・学生の確保に不足があった場合は大学の職員で補充すると言っているが、職務規定に抵触する
D大学	設置拒否	設置を希望しない	未整備または未接続	1,000人未満	・A社回線未整備地区
E大学	見送り	検討中	A社回線延長は困難	500人未満	・ボランティアとしての学生確保 ・元市施設としてA社回線を使用しているが、投票所予定地までの延長が困難
F大学	見送り	検討中	B社	500人未満	・A社回線未整備地区
G大学	見送り	設置を希望する	B社	500人未満	・A社回線未整備地区
H大学	見送り	設置を希望する	B社	500人未満	・A社回線未整備地区

取組内容

①イオンモール秋田

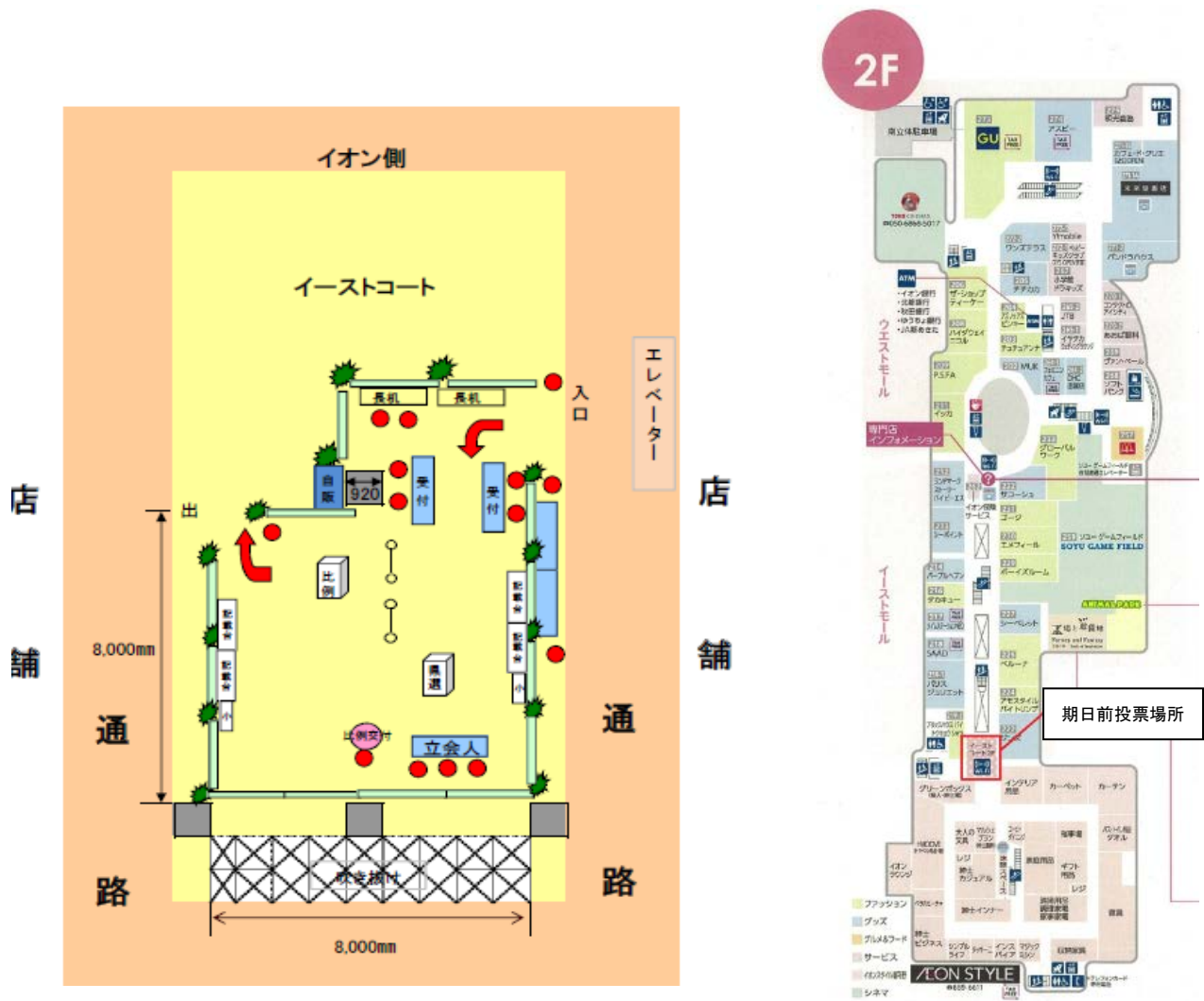
- ・設置期間：平成28年7月3日～9日までの7日間
- ・設置時間：午前10時～午後8時
- ・設置場所：イーストコート2階のイベントスペース（図1）

イオン側から提案があった場所であるが、十分な投票スペースを確保でき、人が集まりやすい場所であったため、選管が考えていた場所としても異論がなかった。

・周知方法

投票所入場券や「広報あきた」による周知のほか、イオンモールの各入口・エレベーターへの案内掲示、セントラルコート（イオンモールの中心にある吹き抜けスペース）への横断幕掲示、イオン店内放送、イオン総合案内前にて投票事務従事者が看板を持って案内するなどの周知を実施した。

(図1：投票所のレイアウト等)



イオンモール秋田の様子

②秋田大学

- ・設置期間：平成28年6月29日の1日のみ
- ・設置時間：午前11時～午後5時
- ・設置場所：学生会館内の研修室（図2）

食堂や売店が設置され学生が一番多く集まる学生会館内の研修室を利用した。

・周知方法

近隣住民への周知は、投票所入場券や「広報あきた」により周知を行った。学生に対しては、大学構内へのポスター等の掲示や案内看板の設置、啓発グッズやチラシの配布をはじめ、大学生自身による期日前投票日当日の投票の呼びかけなどを実施した。

（図2：投票所配置図・平面図（秋田大学））



秋田大学の様子

取組の実績・効果

①イオンモール秋田

- ・期日前投票者数：14,666人（秋田市全体の期日前投票者数70,776人の約20.7%）
- ・うち40代以下の投票者数の割合：約41%
- ・投票者数でみると、秋田市の当日有権者数の5.4%、全投票者数の9.4%を占めている

秋田市では抜群の知名度と集客力を持つ施設であり、商業施設特有の開放性や利便性もあり、買い物のついでに投票できることなどから、家族連れで訪れる若い世代の投票者の割合が、他の期日前投票所と比べ高くなっており、若年層の投票率向上に一定の効果があったと考えている。

②秋田大学

- ・期日前投票者数：416人
- ・うち10代：26人、20代：131人

（大学での期日前投票数全体の約38%であり、若年層の投票割合が高い結果となった）

市全体の投票率は58.00%（前回参院選から4.12ポイント増）であり、大学への期日前投票所の設置が、若年層への啓発効果を生み、全体の投票率向上にも一定の影響があったものと考えている。

また、期日前投票所には、学生だけでなく地域住民も多く訪れ、期日前投票所が地域と大学をつなぐ架け橋となり、選挙以外の面でも地域コミュニティの活性化等の効果があったと思われる。

気を付けた点・工夫した点

（名簿対照）

イオンモール秋田や秋田大学は市役所内の施設ではないため、選挙人名簿対照のためのシステムのセキュリティ確保（物理的、ネットワーク）には留意した。

具体的には、各期日前投票所の受付端末であるノートPCと市役所内のサーバー（市役所に設置）をインターネットとは分離された専用回線で結び、リアルタイムで選挙人名簿対照及び消し込みを行えるよう、新たにシステム構築を行った。投票所入場券に印刷されたバーコードを読み込むことにより、PCの画面に本人の住所氏名などの情報や投票状況が表示され、名簿対照を速やかにかつ的確に行えるようにした。

【システム費用】

費目	金額
回線引き込み費用（初期工事）	439,020円
選挙時にかかるイーサネット回線使用料（基本・回線使用料）	127,440円
期日前投票システム運用手数料（システム運用手数料）	114,720円

（投票所の工夫）

イオンモール秋田では、買い物のついでに気軽に投票してもらうため、投票所の周りを低めのパーテーションや植栽で囲み、投票所らしくない雰囲気と開放感が出るように配慮した。また、民間施設かつ

娯楽施設でもあることから、可能な限り堅苦しい雰囲気を出さないよう、事務従事にあたっては笑顔での対応を心がけた。

投票所内のレイアウトに関しては、混雑時（受付待ちの行列等）に通行人や付近の店舗に迷惑をかけないための動線やスペースの確保を考えた。

（設置場所と効果的な周知）

秋田大学では、敷地が広大であるため、投票所の場所の選定には苦慮した。

具体的には、すべての学生が学部を問わず知っている場所、可能な限り敷地の中心にある場所、敷地の入り口（正門）から誘導しやすく分かりやすい場所、2階以上の場合はエレベーターが設置されているかどうかといった観点から設置を検討した。

また、学生の選挙への関心を高めるため、実際に学生を中心に準備や事務を行ってもらい、選挙を体感してもらうよう心がけた。具体的には啓発グッズの配布、チラシの配布、投票の呼びかけ、投票所の設営にのべ18名の学生が従事した。従事した学生からは、「投票所の雰囲気を知りたくて参加した。ミスが許されない仕事で気を使ったが、役に立ててうれしい。」との声があり、新聞でも取り上げられた。

今後の課題・展開

イオンモール秋田は大規模な商業施設であることから、いかに効果的な案内表示を行うか苦慮している。また、選挙の都度、投票スペースの提供を依頼するが、必ずしも同じ場所を確保できるとは限らず、前回のノウハウがそのまま適用できず、毎回レイアウトや混雑時の周辺対応等を考える必要がある。

秋田大学については、今後も引き続き実施していきたいが、長期の休み期間（夏休みなど）に選挙が実施される場合、期日前投票所の設置自体を検討する必要がある。また、今回の実施状況等も踏まえながら、今後、設置期間や開設時間の拡大についても検討していきたい。